

# 令和3年第1回定例市会予算特別委員会(教育委員会 3月5日)質疑

## 1. コロナ禍における学校の見える化、スマートシティ活用について

**平野達司** 今回のコロナ禍で授業参観が実施できなかったためオンラインによる授業参観希望が多い。教育の現場でICTの活用が先行している会津若松で、「あいづっこ+」とし「学校の見える化」が進み、学校同士の切磋琢磨で学校のレベルが向上。神戸市もスマートシティの取り組みの中で今後のICT技術を活用した学校の見える化、どのように取り組んでいくのか。



**竹森学校支援部長** 学校の見える化は、学校運営を行っていくということで大変重要。「あいづっこ+」は、学校の行事の様子、写真、学校だより、給食だより、緊急情報など保護者にスマートフォン向けアプリとして提供する新しいツール。神戸市では来年度から新たな連絡ツール“すぐー”を全ての学校で運用することで、学校だよりや行事案内を保護者にデータで配信、保護者が専用アプリで欠席や遅刻の連絡を入れたり、アンケートに回答等が可能となる環境を整えている。今後もICT技術を積極的に活用し、学校生活の様子を保護者に発信するような取り組みを充実させていきたい。

## 2. 拠点校部活動の充実について

**平野達司** 子供たちには、人間性や社会性を育むにあたって部活動は、非常に貴重な体験ができる場である。5年間で運動部は25部、文化部も18部減っている。拠点部活動の充実のため1点目は、拠点校部活動の条件の原則として小学校の時に1年以上継続して経験したことがあること。いう条件を撤廃していただきたい。2点目は、拠点校部活動に文化部も追加していただきたい

**住谷次長** 拠点校部活動について、現在は陸上、水泳の個人種目が9種目と、バスケットボールで合計10種目の運動部を実施。400名以上の生徒が活動中。今後の部活動の望ましいあり方を協議する中学校部活動懇話会において文化部の拠点校の活動の実施や小学校時における権限経験年数の条件の見直しについても今後議論を行い、検討していきたい。

**平野達司** 拠点部活動の1年間という条件の撤廃や文化部の追加を議論いただき、その上でもう少し小さい会議体も必要ではないか。区単位、近隣中学校単位などで確認できる体制をとっていただき児童生徒の情報をしっかり吸い上げ、文化部、運動部問わず、ニーズを把握していただいて幅広く部活動の間口を広げていただくようにしていただきたい。

**長谷川事務局長** 今後の部活動のあり方は保護者、運動部文化部の関係者から意見を取り入れることは非常に重要なことだ。部活動ガイドラインの実施状況や、その効果の検証を重点的に協議をしてきたが、今後の部活動の柔軟なやり方といった観点からは正直申し上げて十分な議論ができていなかった。部活動の望ましいあり方として生徒や保護者関係者からニーズを十分に酌み取った部活動にしていくためにこういった観点から改善していけば良いのか、検討していきたいと考えている。

## 3. 中学校給食の全員喫食に向けた取り組みについて

**平野達司** 中学校給食の来年度からの全員給食制への移行に向けた調査検討の開始について給食の準備にあたって廊下で配膳準備されてる学校があった。動線が重なり、時間を要し生徒同士がぶつかってしまう。さらに食器を落とすトラブルがあった。課題が山積してるが、どのように解決しようとしているのか。



**長田教育長** 1日約3万7000食の給食を安定的に提供していくために、どのような方式で実施し、調理体制の確保などが大きな課題である。ご飯に加えておかず全体を温かい状態で提供するために、教室での配膳ということが必要。配膳のための時間、場所や動線についても十分検討していきたい。さらにアレルギーへの対応、地元食材のこれまで以上の利用の促進、献立内容のさらなる充実、などもあわせて検討していく。課題解決は、現在学校給食委員会の中で有識者、保護者代表、学校関係者等々において全員喫食性における実施方式の検討とあわせて幅広く議論を行う。今年の秋ごろまでに基本方針を策定したい。

**平野達司** 多くの課題があるが精力的に検討しできるだけ早く温かい給食ができるようお願いしたい。給食時間の確保、民間事業者の活用、センターの整備、アレルギーの対応も小学校と同様に別メニューの対応で、神戸のお米、神戸の野菜、また神戸のシラスなど地産地消の取り組みをぜひ進めていただきたい。

## 4. 神戸高専の認知度・魅力向上についても質疑いたしました。(質疑要旨は紙面上割愛します)